


ごはんできたよ
おう
はぁ…また店の残り物かよ
いいかげんもう食べ飽きたつーの
朝食じゃねえんだぞ
しょうがないでしょ今月ピンチだから
二乃が結婚して辞めてから新メニューの売り上げが良くなくて…
二乃サンと違ってお前には先天性の料理の才能がないからな
……
クシャ
クシャ
貯金だって削れてきてるしこの先どうするつもりなんだよ


つ…そっちこそ
相談もなしに
急に仕事辞めたりして
ニートだから今月の家賃も
払えないんでしょ！
前の仕事は
合わなかったんだよ‼
それにニートじゃない
就職活動中だ‼
半年も働いてないのに
大層な言葉並べないで
あと家賃だって
そもそもお前の妹の
義父の持ち家だろ
無理に支払わ
なくてもいいだろうが



…二乃と約束したんだ

フータローは高校生のときこの家の借金を返すためにバイトを掛け持ちしてまで頑張ったんだもん

それに比べて自分たちは親のお金で不自由なく暮らしてて…

今は事業が成功してお金に余裕があるみたいだけど

なら返さなくていいよねなんて言えないよ

自分を信じろ

お前は昔からできる奴だ

フータロー、フータローって



元貧乏人の片親がたまたま勉強できて金持ちになったのがそんなに偉いのか
どうせバイトと勉強でつまらない人生歩んでたんだろ
っな！
撤回して!!
はぁ!!
フータローのこと馬鹿にしないで！
今のあんたなんかよりずっと立派に…


ワロロ…
……っ
あ…ワル…
バッ
おいどこいく三玖！
戻りやがれ

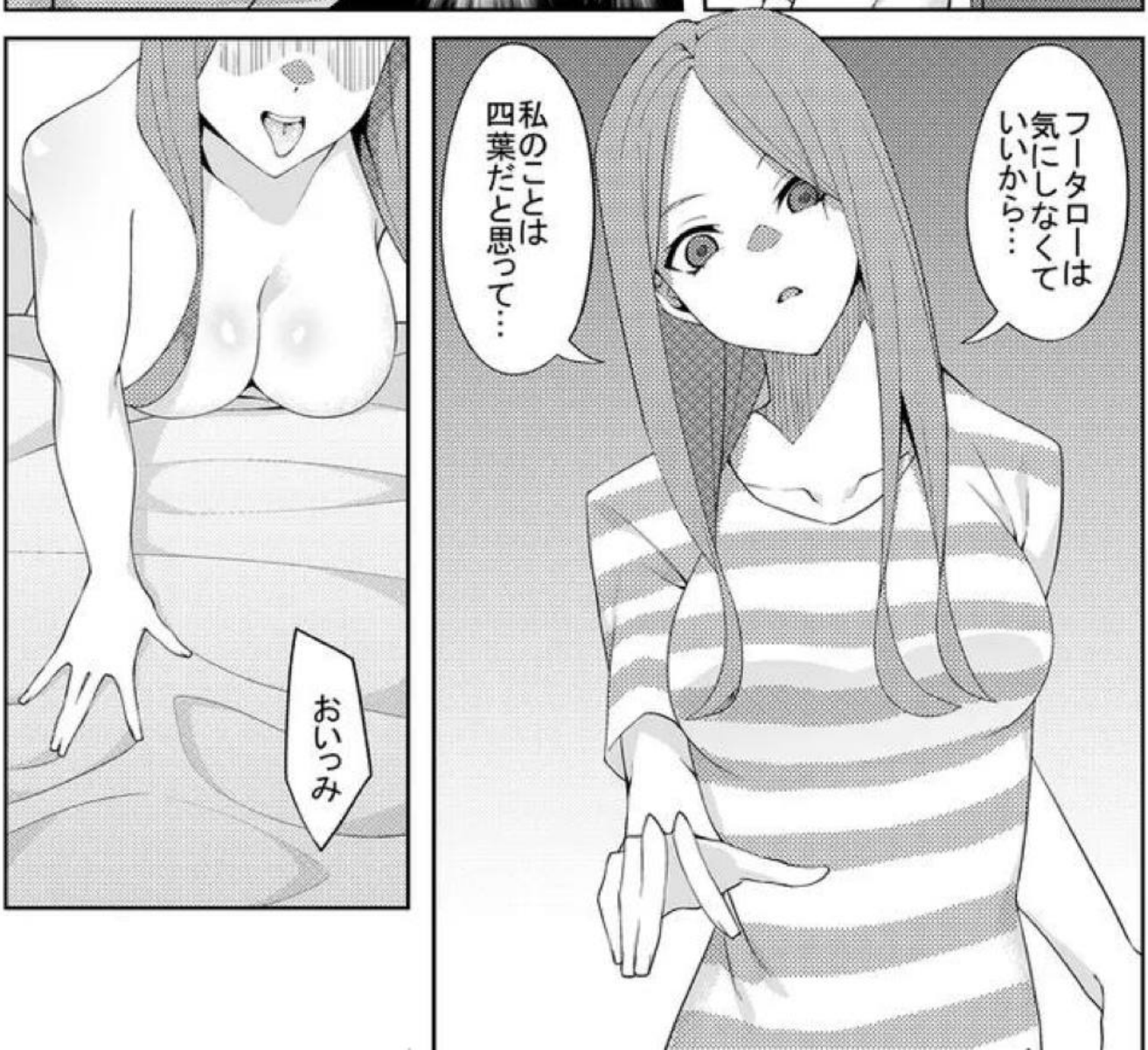

プルルルル
三玖じゃない
久しぶり！
こんな時間に
どうしたのよ？
二乃ペットなんて
飼ってたっけ？
私？
大丈夫よ
今ペットに餌を
あげてたところよ
それでなんか用
いや…元気に
してるのかなって
レストランの
経営は順調？


おかげさまで順風満帆よ
そっちはどう…順調そう？
言えない…二乃に少しでもお店の立て直しに手伝ってくれないかなんて
カフェの仕事も楽しいけどやっぱり本格的な料理はやりがいを感じるわ毎日大変だけどね
そっか…
ビク
ビク
ぎゅうう
うん…なんとかやっていけてるよ


そう…少し元気がないようにも聞こえるけど
悩みがあるならあのマンションに行ってみたら？
四葉の明るさを見れば悩みも吹き飛ぶだろうし
ビキ
ビキ
あそこにはフー君もいるから
きっと力になってくれるわよ


それが…どうしてこんなことに
フーン
フーン
じゃあ私シャワーで汗流してくるから
そのあいだ風太郎君の相手してあげて
えっ…私はそんなつもりじゃ
ううん
フータローの…
…相手
私につとまるかな
ドキ
ドキ


三玖！
四葉の言うことなんか
真に受けなくていいからな
お前はもう結婚して
旦那もいるんだし
さっきは
悪かったよ
夢中になって
理性がトんでた
駄目なことは
分かってる…
でも旦那と喧嘩して
フータローにも必要と
されなくなったら私は


フータローは
気にしなくて
いいから…
私のことは
四葉だと思って…
おいっみ


固くてたくましいイケメンチンポにしてあげる
レロッ
ドキ
ドキ
やっぱ…おっきい♥
でもまだ半勃起
おっ!?
スチュ
ビクッ
やばい…三玖が想像以上にテクニシャンだ


強く刺激はせず
軽く触れる攻めで
じらしてきて
徐々に気持ちを
たかぶらせてくる
れろ
れろ
はぁ…
旦那におしえられたのか…


あれえ
フータローのおちんちん
ピクピクしてる♥
ほおら
大好きな
おっぱいですよ
もどかしくて
たまらないって
伝わってくるよ
ぱふ
いいこいいこ


旦那が自分の早漏を
棚に上げて私に覚えさせた
焦らしテクだったけど
ハッ
レッ
レッ


私に酷いことしたからフータローを悦ばせるのに利用されちゃった♥
すごおい
カッチカチで立派になってる
つつつ


もう二発も射精したのにこんな焦らしで勃起しちゃうなんて
もしかしてフータロー絶倫さん？
チュパ
チュ


レロォォ


シュルル
じゃあ…挿れるよ
ズプ
ズプ
ふ…太い
フータローのチンポが隙間なくおさまってすごい圧迫感
まだ全然はいってないのに
ガク
ガク


うぐ…
いいっ
ここまでで旦那の一番深い長さ
けどまだ半分は残ってる
こわいのにオマンコがそれを心待ちにしてる
これをいれたら自分の価値観全てが塗り替えられる気がする
フータローなら許してくれるよね

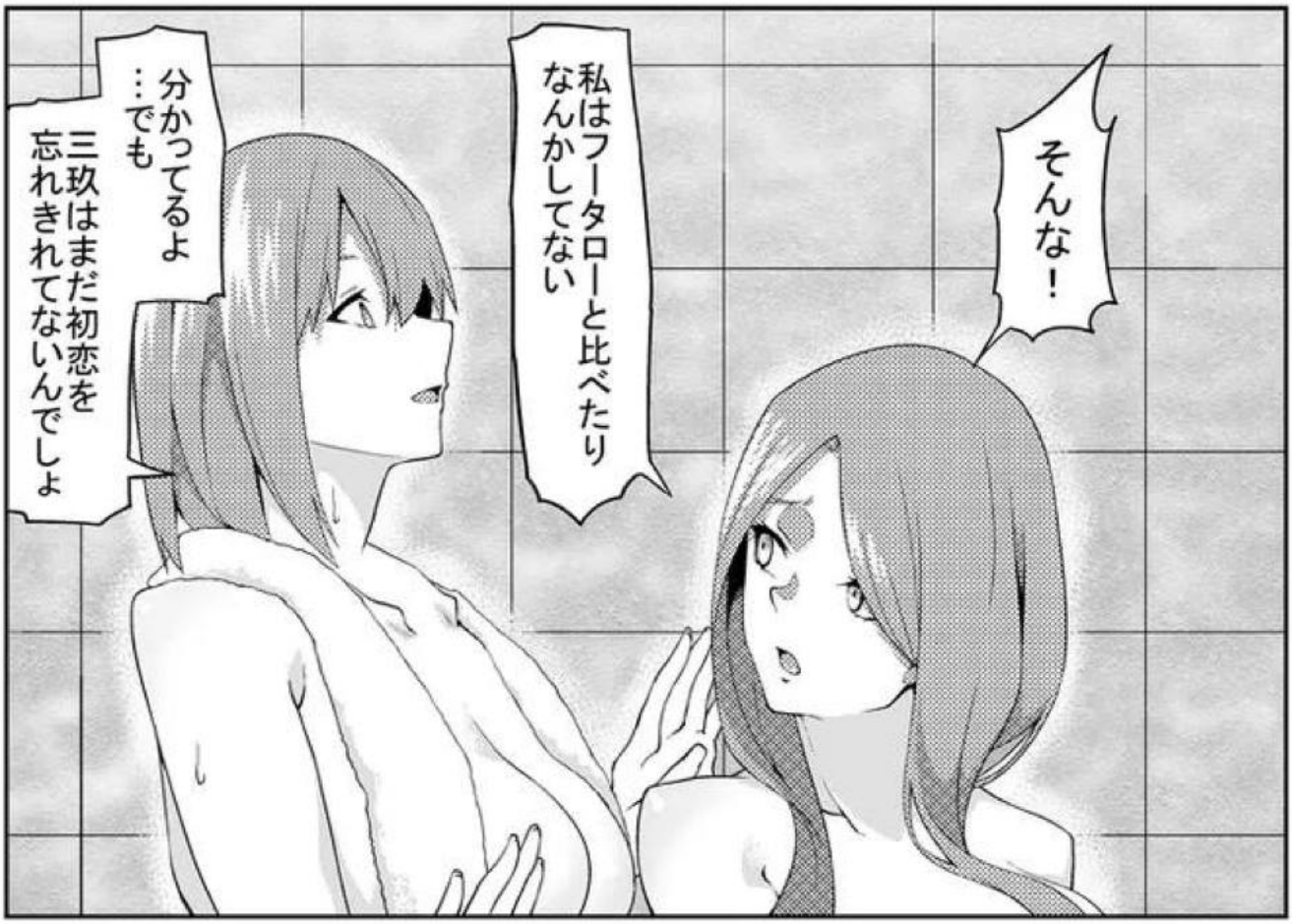

ふう…ふう
足が震える…
ほっ
腰振らなきゃ
フータローを悦ばせる
雌だっていけないのに
ガク
ガク
今まで旦那としてきた
セックスがまるで
お遊びかのように
教え込まれたテクニックが
通用しなくなってる


ふぅ…ふぅ
四葉とはあんなに激しくしてたのに…


まるであの日選ばれなかったのが必然だったかのように
非情な現実が突きつけられてく

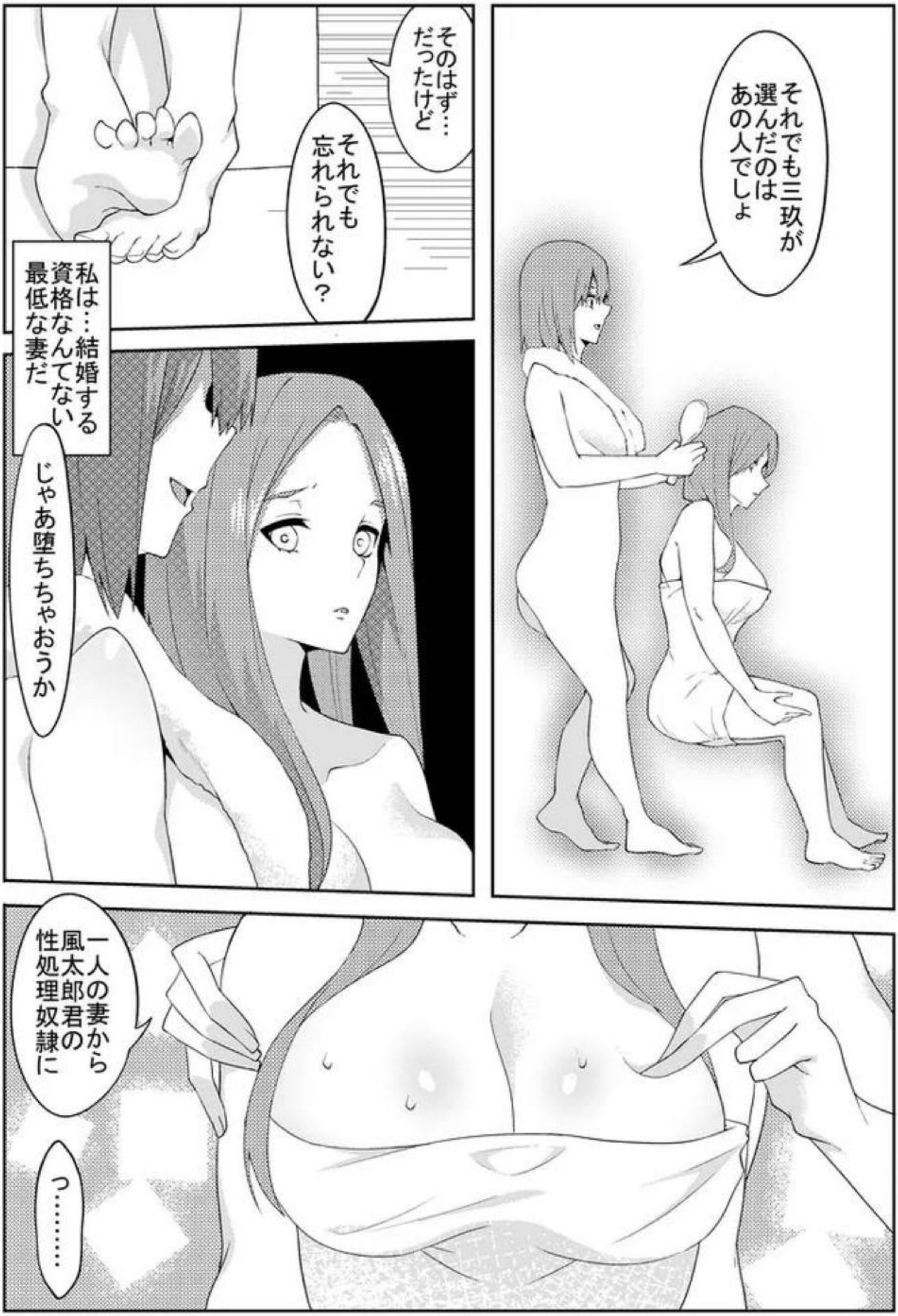

ぐぐ…
私がフータローを満足させることができないなら他に何を差し出せばいいの…

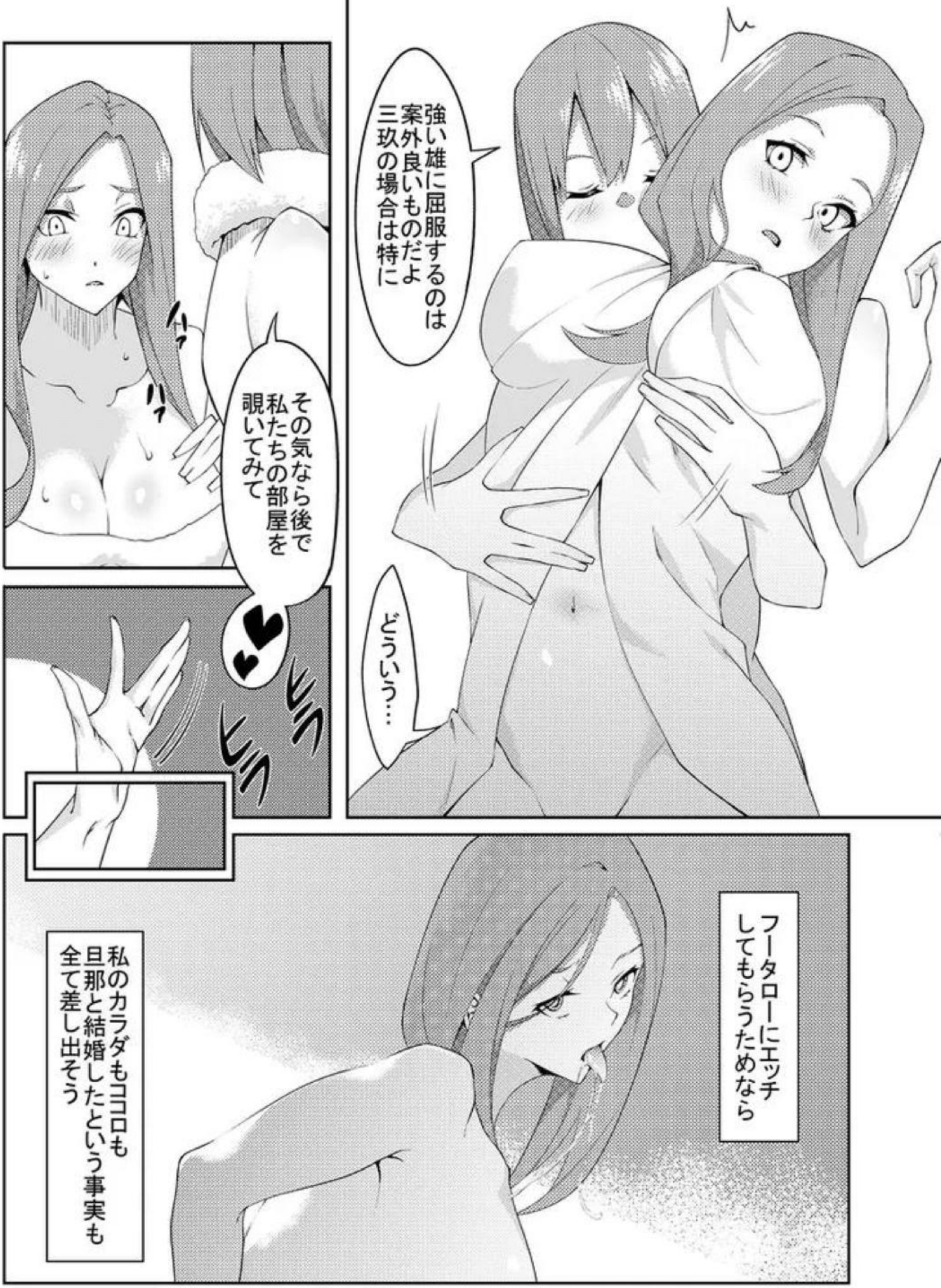

ガァァァァ
なるほどねぇ
それで旦那さんと
喧嘩したと
三玖をいじめたのは
許せないけど
でも少し旦那さんも
かわいそうかなぁ
妻が初恋の男と比べて
くるんだから
ストレスにもなるよね


そんな！
私はフータローと比べたりなんかしてない
分かってるよ…でも
三玖はまだ初恋を忘れきれてないんでしょ


声に出さなくても心の奥底で今の生活とあったかもしれないフータローとの夫婦生活を比較してしまう
それに勘づいてたから風太郎君に対してライバル心みたいなのがあって
悪態をついてきたんじゃない


聞こえてんぞ…
まあ風太郎君は格好いいし稼ぎもいいし理想の旦那さんだけど


それでも三玖が選んだのはあの人でしょ
そのはず…だったけど
それでも忘れられない？
私は…結婚する資格なんてない最低な妻だ
じゃあ堕ちちゃおうか
一人の妻から風太郎君の性処理奴隷に
っ……


強い雄に屈服するのは
案外良いものだよ
三玖の場合は特に
どういう…
その気なら後で
私たちの部屋を
覗いてみて
ハァハァ
ヒソヒソ
フータローにエッチ
してもらうためなら
私のカラダもココロも
旦那と結婚したという事実も
全て差し出そう


フータロー
私のこと…
好きに虐めて
雑魚旦那の早漏チンポ
イかせた程度のテクニックで
満足してたバカ雌に
チンポ挿れただけで
腰を抜かした雑魚雌にぃ
本物の勝ち組
つよつよオチンポ様で
負け組夫婦の思い出
ぶち犯して


長い夫婦生活で育んだ絆
きまぐれ交尾で砕いたら
優越感できっと
すごおく気持ちよく
射精できるよ
こいつ……！
ガシ


人の気も知れないで
あっん
ビクッ
ひぎゅ…


お前が毎度あいつと喧嘩したって聞いてどんな思いしたか分かるかっ
パン
パン
ばふ
ハッ
お前が酷い目にあわされたって知って腹立たしかったよ


ごめんなさいっ
こんなに優秀な雄が近くにいながら放っておいた
ぷ
ぐちゅ
ぐぽっ
繁殖能力皆無の負け雌ですぅ


あっそこは
ズズ…
旦那はここまで
なんだろ
ポッ
自分から挿れたとき
そこで止まってたもんな
ぐぐぐ
太さの違い
だけじゃない
ぐぐぐ
旦那の自分本意の
腰ふりと違って
一点に集中して
弱いポイントを
的確にしつこく
攻めてきてる
ズズズ
同じ男でもここまで
差があるものなの


思い返せば当たり前の話かもしれない
いくら私が勉強を頑張って姉妹で一番になろうとしても
フータローに勝とうなんて思ったこともなかった
ごめんね…
本当は私のことを大切に思ってるから
フータローのことをライバル視してるかもしれないけど…
亭主関白気取って自分を強く見せたかったのかもしれないけど
私たちはこの人には…絶対何一つ勝てない


本能がこの人を
本物の雄だと
認めちゃってるの
彼が望めば
全てを差し出すしかないの
だから…奪われるのは
しょうがないことだから
相手が悪かったと思って
はぁ～
はぁ～
ヌトォ…
ただでさえお前が他の男と
してるってのも我慢ならないのに
ズッ
パン
パン
ズッ
卑猥なテクを
仕込まれやがって
その上暴力を振られても
かばいやがって


んあっ♡
あはぁ
ぱんっ
そんなに痛いのが好きなら
嫌ってほど味わわせてやるよ
ぐりっ
ぐりっ
いいの…！
フータローからだったら
痛いのも気持ちいいのぉ


すごい表情だな
なぁ…旦那のしか
いれたことない
お前は知らない
かもしれないが
この奥のところが
四葉も一花も二乃も
すごく弱いんだ


すごい…一花も二乃も
これで堕としちゃったんだ
当然だよね
フータローより優秀な雄
なんているわけないもん


自分じゃ挿れただけで
腰も動かせなく
なったわけだが
あたまがトぶくらい
気持ちよくなれるぞ
ぐちゅ
欲しくないか
ほしいい
のーみそフータローの
ちんぽ汁でマーキングして
パチュ
浮気ちんぽ大好物の
負けマゾ雌豚にしてぇ
パチュ
パンッ


はあぁ
パン
パン
とんじゃう
いっ知らない！
こんなのしらないのぉ
私たちはぁ
こんなよわよわな
弱点かかえてるのに
ビクッ
フータローはこんな一撃必殺の
恐ろしい凶器もってるなんてぇ
これじゃ…まるで
足軽と将軍様
三玖っ


お前が覚えたテクも全部忘れろっ
あっ♥
あ〜♥
俺専用の奉仕を新しく覚えてもらうからな
ギシ
ギシ
ひゃあぁい
じぇんぶフータローのいうとおりにしましゅう
射精すぞ！
いいこだっ三玖っ
ビッ
ビッ


きてええええっ〜♥
イグゥゥゥ〜♥